

技術部技術交流報告

技術部 布目清成 瀨瀬明三

名古屋大学工学部・工学研究科技術部

期間 平成13年2月15日(木)~16日(金)

場所 徳島大学工学部・大阪大学工学部

目的 環境・排水・安全などの施設の視察と資料収集

徳島大学工学部では小松敏行技術長の案内で、各施設の視察をさせて頂き、また三橋事務長と管理課長より施設等の説明もしていただいた。実験排水について以前は、排水槽を設置し適正な処理をして排出していたが、2000年5月より徳島市の下水に実験排水、汚水、雨水等を流しており水質等の管理はしておられない。薬品等は保管庫へ収納し、無機廃液は学内処理しており、有機廃液は業者に依頼していた。地震対策については特に対応されていない。

視察後に技術部との懇談会を持っていただき、16名の方と意見交換を行った。技術部は3系で組織され49名の技術職員が、7学科に分散している。大半は研究室に居室があり、2学科は技術室とら形で集中化していた。工作センター(実習工場)には3名が常駐し、昨年より受益者負担を取り入れた。各学科でも加工機械を持っており有料化とともに業務が減少しているとのことであった。技術部の予算としては、約80万円程度予算化されていた。他有意義な意見交換をさせて頂いた。

大阪大学工学部では西山六朗技術長と技官会会長の岩崎信三技術専門職員が応対され、岩崎氏の案内で視察をさせて頂いた。大阪大学工学部は技術部の組織は4系(54名)で組織されているが、技術部の主な運営は技官会が行っているとのことだった。技術職員の配置は研究施設に所属する職員以外は、各研究室に所属する形態であった。薬品の管理等は保管庫へ収納し、地震対策等も行われていた。有機廃液は年4回、回収し業者へ。大阪大学工学部には保全科学研究センターがあり、ここで無機廃液の処理を行っている。技術職員がいないので業者が2名で1週間かけて処理を行う。排水管理は別紙のように建物ごとにPH計(11カ所)が設置されている。この管理については業者に依頼されておりセンターではわからないとのこと。別紙中のマス(9カ所)において、毎月排水の検査が行われており、36項目の成分について分析されている。吹田市の立ち入り検査は年に6回行われ、保全センターではそれらの報告を行っている。尚、この分析は業者に委託されておりその費用は、年間1300万円になっている。他、300万ボルト超高压電子顕微鏡・船舶試験水槽等の施設を見学させて頂いた。今回の技術交流にご協力いただいた徳島大学と大阪大学の関係者の方々へ感謝申し上げます。